

優しく強い子に！



http://www.minamih.net/  
19・1・5(土)  
南NEWSno116

南のJrユースは16年前に、故松田監督が矢上に「南のJrユースを創りたい」と言ったことが始まりです。「学校のクラブ活動がない時に、部活には入らないけどサッカーを楽しみたいという中学生のために、勉強をGAMBARI、サッカーも楽しみたいという中学生のために南のJrユースを創りたい」という趣旨だったのです。会費も月1500円にしました。たくさんの中学生に参加してもらうために最低限必要な額にしたのです。「他に優しく、やるべきことをやり抜く強さを持つ子が育つ素敵な南を創りたい」とスタートしたのです。その年の6年生は全員が南のJrユースに入部したのです。2004年には拓大杯を制し、三多摩リーグも制したのです。

来年の4月、みなみ野から11人が南のJrユースに入部します。南Jrユースの日頃の活動の良さがみなみ野の子ども達・コーチ・保護者にも伝わっているのだと思います。松田さん亡き後を引き継いだ和田監督以下のスタッフの努力が認められたのです。

南のエースでキャプテンだった小松君と名GKだった高田君は昨年八王子vs静岡定期戦Jrユースの部で小松・高田のホットラインが躍動し、勝利したのです。小松君・高田君は勉強・部活と南の三つをやり遂げてこの春に卒業します。南の先輩に続いてほしいです。



「〇〇クラブに受かりました」と笑顔でセレクション合格の報告を受けるとき、私も「良かったね！GAMBARIってね！」と気持ちを込めて祝福の言葉を贈っています。勉強にもしっかりと力を注ぎながら、強い名だたるクラブに入ってハイレベルな力をつけ、サッカーを楽しむことも素晴らしいことだと思います。一方、勉強もGAMBARI、部活も南のサッカーも楽しむという選択も素晴らしいなと思っています。幼児から大人のクラブの代表として思うのです。サッカーはブランドでするものではありません。日々の努力が自分を高めるのです。それができる人が次のステージに登場できるのです。

by 南のアンパンマン

最近読み終わった本です。希林さんと黒木さん共演の映画の原作です。学ぶことがたくさんありました。お貸しします。

『日日是好日』 森下典子著 新潮文庫  
p229~230

個性を重んじる学校教育の中に、人を競争に追い立てる制約と不自由があり、厳格な約束事に縛られた窮屈な茶道の中に、個人のあるがままを受け入れる大きな自由がある……。

いったい、本物の自由とはなんだろう？  
そもそも、私たちは何と競っているのだろうか？  
学校もお茶も、目指しているのは人の成長だ。けれど、一つ、大きく違う。それは学校はいつも「他人」と比べ、お茶は「きのうまでの自分」と比べることだった。

私は、ある後ろ姿を思いだした。  
八十歳を老婦人が、真っ白い髪を結び、淡い藤色のストールを肩にかけて立ち去る光景……。初めてミチコとお茶会に連れて行ってもらった日、三溪園の

庭に面したお座敷で、その人と出会った。「さっ、私もこれから、もう一席、お勉強してきましょう」その老婦人は、去り際に嬉しそうにこう言った。「お勉強って、本当に楽しいわね」受験のための勉強をしてきた私とミチコには、八十過ぎの人と「お勉強」という言葉がどうしてもそぐわないものに思えた。この世には、学校で習ったのとはまったく別の「勉強」がある。あれから二十年が過ぎ、今は思う。それは、教えられた答えを出すことでも、優劣を競争することでもなく、自分で一つ一つ気づきながら、答えをつかみとることだ。自分の方法で、あるがままの自分の成長の道を作ることだ。気づくこと。一生涯、自分の成長に気づき続けること。「学び」とは、そうやって、自分を育てることなのだ。



12月24日(月) 朝日新聞 朝刊 12・31に観てきます。

## 夢キックオフ 全国高校サッカー 30日開幕

第97回全国高校サッカー選手権大会が30日に開幕する。都勢では15年ぶり4回目の国士館と2年ぶり4回目の駒大高(いずれも世田谷区)が出場する。駒大高は同日、駒沢陸上

競技場である那覇西(沖縄)との開幕試合に登場。国士館は31日、同競技場で米子北(鳥取)との初戦に臨む。

(滝口信之)

練習でボールを奪い合う国士館の選手たち(世田谷区)



過去3度はいずれも初戦敗退した国士館。今回の目標は「大会初勝利」だ。今年の都総体は、1次予選初戦で敗退。選手たちは都大会決勝でボール拾いをし、目の前で全国大会出場を決める様子を見た。「冬(選手権大会)は

### 国士館

## 初勝利に向け守備重視 31日 VS.米子北

必ず全国に」と誓った。この敗戦から「守備重視」を掲げた。前線からプレスをかけ、ボールを奪うサッカーに戦術を変更。今大会の予選でさっそく成果として表れた。1次予選から計8試合戦い、失点はわずか3。準決勝、決勝はともに無失点だった。守備の中心は、1対1に強いDF永吉風太選手(3年)と、身長180センチ超でヘディングに強いDF長島佑人選手(3年)だ。GKの小松直登選手(3年)も決勝でPKを阻止するなど好セーブを連発した。一方、攻撃陣はメンバーを固定せず、に戦ってきた。上野晃彦監督は「調子の良い選手を使う。スタメンも控えも力に遜色はない」。その中でも、ともに3年でMFの長谷川翔主将と浜部響乃介選手が中心だ。長谷川主将は司令塔としてパスを出すだけでなく、ゴール前に飛び込むこともでき、浜部選手は決勝・大戦で決勝点を決めた。全国レベルの大会を経験した選手は少ないが、選手権大会で優勝経験のある流通経大柏(千葉)や青森山田などとの練習試合を重ねた。長谷川主将は「どんな相手でも臆することなく、自分たちの持ち味を出し、一つでも多く勝ちたい」と闘志を燃やす。

守備の中心は、1対1に強いDF永吉風太選手(3年)との記述があります。